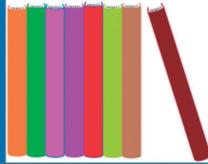




大人が絵本を 第46回 方言は



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

何と言ってるのでしょうか？

「おいは、わいが好かん」

「じゃっどん世の中には貧しい人たちが山ほどおっ」

出身地や在住都道府県を問わず、NHKの大河ドラマファンの方なら、これが2018年の大河「西郷どん」のセリフだとすぐにお分かりでしょう。1月にスタートして話題になったこととは、キャスト陣よりも、ストーリーよりも、この薩摩ことばです。初回放送直後から、ネット上では「何を言っているのかわからない」などの感想が続々と書き込まれました。「わい」というと、全国的には自分のことを指すとの認識が多いでしょうけれど、薩摩ことばでは相手のことを指し、自分のことは「おい」と言います。よって、冒頭のセリフは「私はあなたが嫌いです」と言っているのです。

鹿児島から遠く離れた北の大地・北海道の「そだねー」も今年、一気に全国に広まり、大人気となった方言です。平昌(ピョンチャン)オリンピックのカーリング女子で銅メダルを獲得したLS北見の選手たちが、試合中にやりとりする会話が電波に乗って日本中に流れると、「かわいい」や「癒される」などの評判を受け、全国津々浦々、土地とか地域に関係なく真似して使われるようになりました。方言の流行語です。

NHKは朝の「連続テレビ小説」で様々な土地をクローズアップし、各地の方言をひとつの特色としているようです。2013年に放送された「あまちゃん」で、主役が多用した岩手県小袖地区の方言「じぇじぇじぇ」は、ユーキャン新語・流行語大賞を受賞しました。流行語大賞を獲るに至るまで、全国各地で爆発的に飛び交ったことばです。

日本人なら一定年齢の誰しもが知っている特定地域の方言である「なんでやねん」は、突っ込むときの常用語のように全国民に使われています。絵本で使用される方言も、大阪弁が断然と多いのです。

大阪弁の笑い

大阪弁・関西弁の絵本が多いのは、長谷川義史氏に代表されるように、大阪出身の実力ある絵本作家が大阪弁を主体とした創作活動を行い、多数の作品を輩出していることに一因があるようです。長谷川義史作『大阪うまいものうた』や岡田よしとか作『うどんのうーやん』シリーズなど、大阪の文化を大阪弁で語って笑いを誘う絵本は、何度でも開きたい衝動にかられます。



『大阪うまいものうた』
長谷川義史 作
(佼成出版社)

関西弁にはイメージが備わっていて、創作物に蓄積される「方言ステレオタイプ」の形成過程が明かされているのはその関西弁だけで、他はあまりわかっていないと日本語学者の田中ゆかり氏は示しています。ステレオタイプとは、「特定のことばづかいから、特定の人物像が思い浮かぶこと」で、その逆の「人物からことばづかいが思い浮かぶこと」も指し、大阪弁・関西弁では「冗談好き、けち、食通、派手好き、好色、根性、やくざ」の七つの「役割語」に集約されると提示しています¹⁾。絵本の場合は、専ら「冗談、笑い」と「食通、食いしん坊」、「派手」がメインでしょう。

手にするときは！

文化だ!! 壺の巻

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ***

*** 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

長谷川氏は、創作や実話を元にした絵本を大阪弁で表現するだけでなく、外国絵本の日本語翻訳にあたり、なんと大阪弁訳にしたのです。カナダ人作家ジョン・クラッセン氏の「ぼうしシリーズ」の日本語タイトルは、『どこいったん』『ちがうねん』『みつめてん』と、本文ばかりでなく、書名まで大阪弁と徹底し、もう、大阪のお話としか受け止められません。『どこいったん』の原題は『I WANT MY HAT BACK』なのですが、日本語の表紙タイトルには「帽子」というワードはないのです。この発想の転換が関西人の持ち合わせるセンスでしょう。シュールな作品が大阪弁で訳されることで、そのシュールさに深みが増し、また、少し怖い印象を受けるシーンがマイルドになる効果を得られているようです。

関西には土地に根付く独特なお笑いの文化があり、大阪弁や関西弁を聞くと「笑い」を期待してしまうのは、過去から蓄積・拡張され、日本語社会に共有されてきた大阪弁・関西弁ステレオタイプが定着しているからなのです。



「方言コスプレ」の時代

「じぇじぇじぇ」、「～でごわす」、『花子とアン』で語られた「こぴっと」など、テレビドラマの影響を受けた国民は、響きの楽しい他地方の方言を会話の中に取り入れて、日常生活をより愉しむ習性にあります。これを田中ゆかり氏は、「方言コスプレ」、つまりは「方言を用いたことばのコスチューム・プレイ」と名付け、言語研究の分析対象としています²⁾。方言コスプレが目立つようになった背景には、携帯メールやSNSなどの「打ちことば」によるコミュニケーションが一要因だとして、若い世代と、生育地方言を持たない首都圏生育者に多く見受けられると

言います。その傾向を「方言からイメージされるステレオタイプを自分のキャラクターとして臨時的に演出するために着脱する」と見ています²⁾。

「方言コスプレ」の場合、ホンモノの方言である必要はなく、「〇〇弁」として共有する「らしさ」が感じられればよいとみて、現実の土地と結びついた「生活のことば」としてのホンモノの方言のことを「リアル方言」、一方「らしさ」を共有するホンモノとは別の方言のことを「ヴァーチャル方言」と区別しています。そして、「その基礎となる『方言ステレオタイプ』は、小説やドラマ・マンガなどの創作物によって、蓄積・拡張・増幅されていった」と考察しているとおりでしょう¹⁾。絵本の世界で例をあげるなら、昔話絵本を示せば、納得いくのではないのでしょうか。



ことばを伝えることは、文化を伝えること

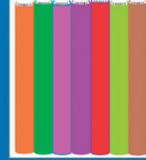
小僧「おしょうさまはやとをあけてくんなせ」

和尚「おういいまおきて」 小僧「はやはや」³⁾

小僧さんの「行きて帰りし物語」である『さんまのおふだ』(福音館書店)は、ハラハラドキドキするスリルたっぷりのお話ですが、新潟の方言による語り口調がおもしろみを足してくれています。

岩手県の昔話『ちからたろう』(ポプラ社)の冒頭で、じいさまが「ふたりのこんびでもおとして、それでにぎょうでもこさえるべや。」⁴⁾と語ります。その前文には、「からだじゅう、こんび(あか)だらけであった。」と共通語が記されているので、“こんび”が何を指すのか読者は理解できています。

福音館書店の創業に携わった松居直氏は、「ことばを伝えることが文化を伝えるということで、方言はそのまま地方独特の文化を伝えるのにとっても重要



なものだ」と述べています⁵⁾。とりわけ、木下順二氏が熊本弁で語る『かにむかし』を絶賛しています。『かにむかし』の原話は佐渡に伝承される昔話ですが、それをわざわざ熊本弁で再話したのは、「いきいきとしたイメージと語感で木下氏が口にできる語りことばが、暮らしの中で積み重ねた愛着のある熊本の土地ことばにあったからではないか」と推察しています⁵⁾。時代を超えて出現した「方言コスプレ」の研究においても木下文学に注目しており、「非“純粋日本語”としての〈田舎ことば〉をめざして造形したものとされていることから、『標準』からの『異化作用』を狙ったものがある」と分析しています¹⁾。



『かにむかし』
木下順二 文 清水崑 絵
(岩波書店)



実は、東京生まれの木下氏は、十歳のときに移り住んだ熊本で、地元の人に耳慣れないことば遣いを笑われたことで、暮らしの中で必要な土地ことばを習得し、自分の生活語にしたという経験をもっているようです。「言語における普遍性と特殊性とを身をもって経験したことが、後年の木下民話に大きく影響している」とは、松居氏の見解です⁵⁾。

あなたの母国語は、ナニ弁ですか？

民話の語りへの先駆者は、『いないいないばあ』『おふろでちゃぶちゃぶ』など、赤ちゃんが喜ぶ絵本を数多く遺された偉大な絵本作家・松谷みよ子氏です。子ども向け絵本の創作活動と同時に、日本各地に伝わる民話を聞き集めてまわり、文字に起こし、本という形で後世に残す偉業を成しました。『やまんばのにしき』は秋田県仙北郡に伝わるお話で、秋田弁が巧みに描かれ、そのリズムが生き活きと伝わってきます。

「むらじゅうの、人もうまも みなくいころされるかもしれね、それでは むらの人たちに もうしわけねえ。おらが くいころされれば すむこんだと ころにきめて、また山を のぼっていったと。」⁶⁾

秋田の方言が文字となり、人間味にあふれたストーリーにことばの響きが相まって、つつい魅せられてしまいます。

同じ秋田県の民話で有名なお話は、斎藤隆介作『八郎』です。斎藤氏もまた東京生まれで、戦時中に秋田に疎開して、その土地ことばに魅せられ、八郎潟の伝説を素材にした絵本を秋田の言葉で創作したのです⁵⁾。

昔話は方言の宝庫で、日本各地の方言と文化とが蓄積された文化遺産なのです。昔話研究の第一人者である小澤俊夫氏は、「母国語としてひとつの地方、ひとつの国の人びとの心を結びつけていくもの」と捉え、土地ことばで語り伝えられた昔話は、その地方の人にとって母国語そのものだと言います⁷⁾。

博多弁コスプレのすすめ

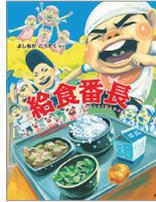
「よっしゃ、おまいら 好かんもんげな 残してからくさ、さっさと 遊びいけばいって!! せいじ、はよせんや! まさお、なんグズグズしとーとやっておいてくぜって」⁸⁾

何と言っているか、分かりますか。福岡県の県庁所在地である福岡市の、商人の町「博多」で昔々から話されている「博多弁」とは、このような荒々しいことばです。福岡生まれで、福岡市在住の絵本作家よしながこうたく作『給食番長』(好学社)の4ページ目のセリフを引用したのですが、実は、ページ下部に小さく書かれている文章なのです。4ページを開いたときに、目に飛び込んでくる文章はこちらです。

「よっしゃ、みんな 嫌いなものなんか 残しちまって、さっさと 遊びにいけ!! せいじ、はやあく! まさお、グズグズしていると おいていくぞ」⁸⁾



『給食番長』
よしながこうたく 作
(好学社)



先ほどの文章がチンプンカンプンだった方にも、お分かりいただけだと思います。この『給食番長』を第1作とする「わんぱく小学校シリーズ」はすべて、このように、本文の文字は大きく共通語で書かれ、ページ下部が囲みの博多弁対訳になっている、なんとも斬新な博多弁絵本なのです。

若者向けファッション誌「Can Cam」が行った「女の子のかわいい方言ランキング」調査で、堂々の第1位に輝いたのは博多弁と報告されています⁹⁾。どうぞ、博多弁コスプレを試してみてください。

日本語の力、方言の力

「方言は、話し言葉、語りの言葉で、文学における表現としては、難しい一面もあります。しかし、絵本の場合、声に出して読むことが多いので、語りの言葉としての力を発揮させることができるのです。ただし、制約はつきもので、その土地以外の者が読むとヴァーチャル方言でしかなく、イントネーションすらニセモノとなってしまいます。それでも大事なことは、豊かで美しい日本語と文化を伝える方言を、生の声で伝えることで、読み手と聞き手が気持ちを通い合わせ、生き活きと楽しい世界を思い描くこと、これに尽きます。

土地ことばで語られてきた昔話を共通語で再話した絵本が多く目につく時代になりましたが、小澤氏は「身近な大人によって、子どもたちに語られるとき、その声、口調とともに、語り手の姿が永遠の生命を獲得するので、ことばは共通語であっても、子ども心の中に滲みこんで、真の母国語としての生命を獲得していく」と、「口語りの時間性」の大切さに

言及しています⁷⁾。

方言だってアイデンティティー

「東日本大震災の後、「がんばっぺ〇〇」と、東北弁の「頑張ろう」の後に各地名を入れたスローガンが目立ちました。被災者が一体となり、支え合っぺ絆を深めるといふ方言の役割が確認された事例です。また、被災地域以外の日本人が、これを目にしたり、耳にしたりすることで、被災者へ気持ちを寄り添わせ、日本人としての一体感を生んだのが方言の力でした。方言もまた、アイデンティティーなのです。

歯科診療室や待合室で、子どもたちと共通語で話しをするよりも、それぞれの地方の馴染み親しんでいる方言で会話をしようが、その距離感はずっと近くなるし、子どもたちは親しみを感じることでしょう。方言コンプレックスの時代を経て、現代の日本語社会では、場面に応じた「方言」と「共通語」のバイリンガルが多いといひます。一方で、最若年層では「出身地方言」と「共通語」の区別がつけにくいという実態や、昔から語られてきたホンモノの土地ことばの話者が少なくなったとか、若い世代が方言を使えないという問題も指摘されています。わが博多弁をみても、昔ながらのリアル博多弁を話す人は、身近に数名しかいません。

子どもたちのお口の健康を司る歯科医院が、口から発する「ことば」を大切にすることも、ひとつの役割として捉えても良いのではないのでしょうか。その土地の文化を拡張し、土地ことばを伝承していくという役割も担うことができます。チェアサイドで、「〇〇弁クイズ」との遊びで良いのです。読者の皆様方の地域に伝わる土地ことばの絵本はありますか。

方言の流行など、楽しいお話をしてきましたが、今、消滅の危機にある方言が問題となっています。

続きは次回、またお目にかかりましょう。